

::COG2018::

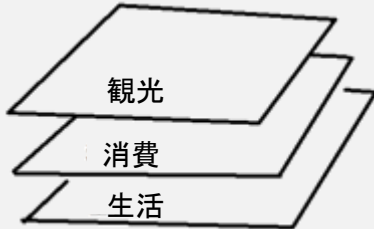
不動産オープンデータとセンシングデータを用いた遊休不動産活用促進プラン

- 要旨** 課題・目的
高松中央商店街を中心とした商業地域における空き店舗・空き事業所の活用推進
解決アイデア
1. 空き店舗・事業所の不動産情報マッピング 2. 人通りの可視化

1. 背景 - 都市の複合的機能

高松市は都市構想として「コンパクトシティ」を掲げており、市街地域には複合的な役割が期待されている。特に中央商店街を中心とした地域は「生活」「消費」「観光」が複層的に重なり合う場としての役割が期待される。

他方、住民意識の変化やモータリゼーションの進展に伴い、都市は拡散傾向にある。既に基盤整備が進んだ



都心部では大規模な構造変更は難しく、遊休不動産の活用の必要性が高まっている。

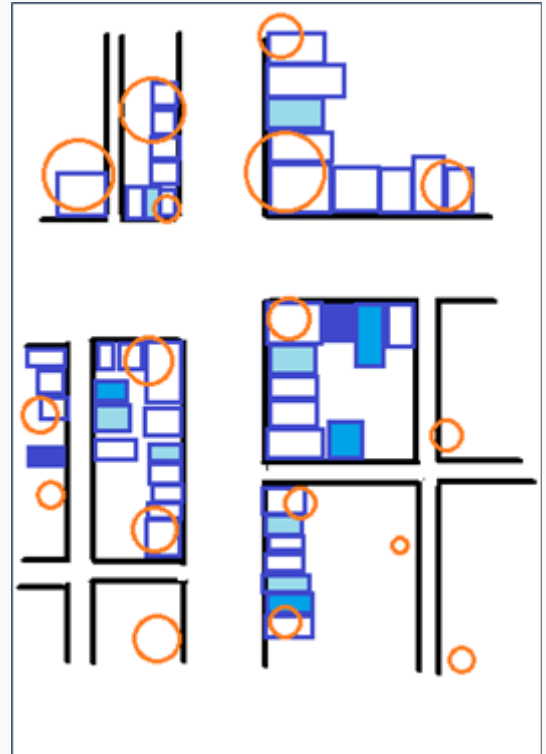
2. アプリケーション概要

アプリケーションは二つの要素からなる。

1. 遊休不動産情報の可視化
2. 人通り（人流）データの可視化

1. 商店街に隣接・近接する不動産の空きフロア率（空きフロア数／総フロア数）に応じて、率が高いほど濃い色で表示する。

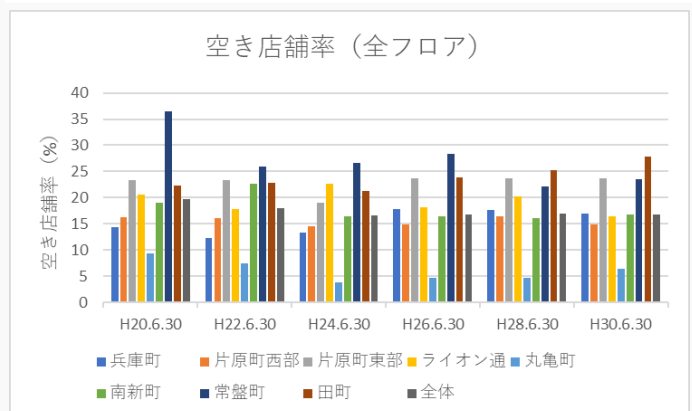
2. 商店街および近隣エリアに人流を感知するセンサーを設置し、人流数をカウント、随時FIWARE（オープンデータプラットフォーム）に反映する。人流数に半径が比例する円で随時人流を可視化する。一定時間でデータを破棄することで、累積データをトランザクションとして可視化する。



アプリケーション画面イメージ

3. 期待される効果

1. 街区状況のイメージの直感的把握
2. 新規出店の意思決定補助
3. 行政の街区整備への情報提供
4. 人流情報をイベントに利用し、まち歩きや散策のツールとして利用



「(H30.6月) 店舗立地動向調査結果」(高松市)より筆者作成